

今週の T2 経済レポート



2021年2月5日号

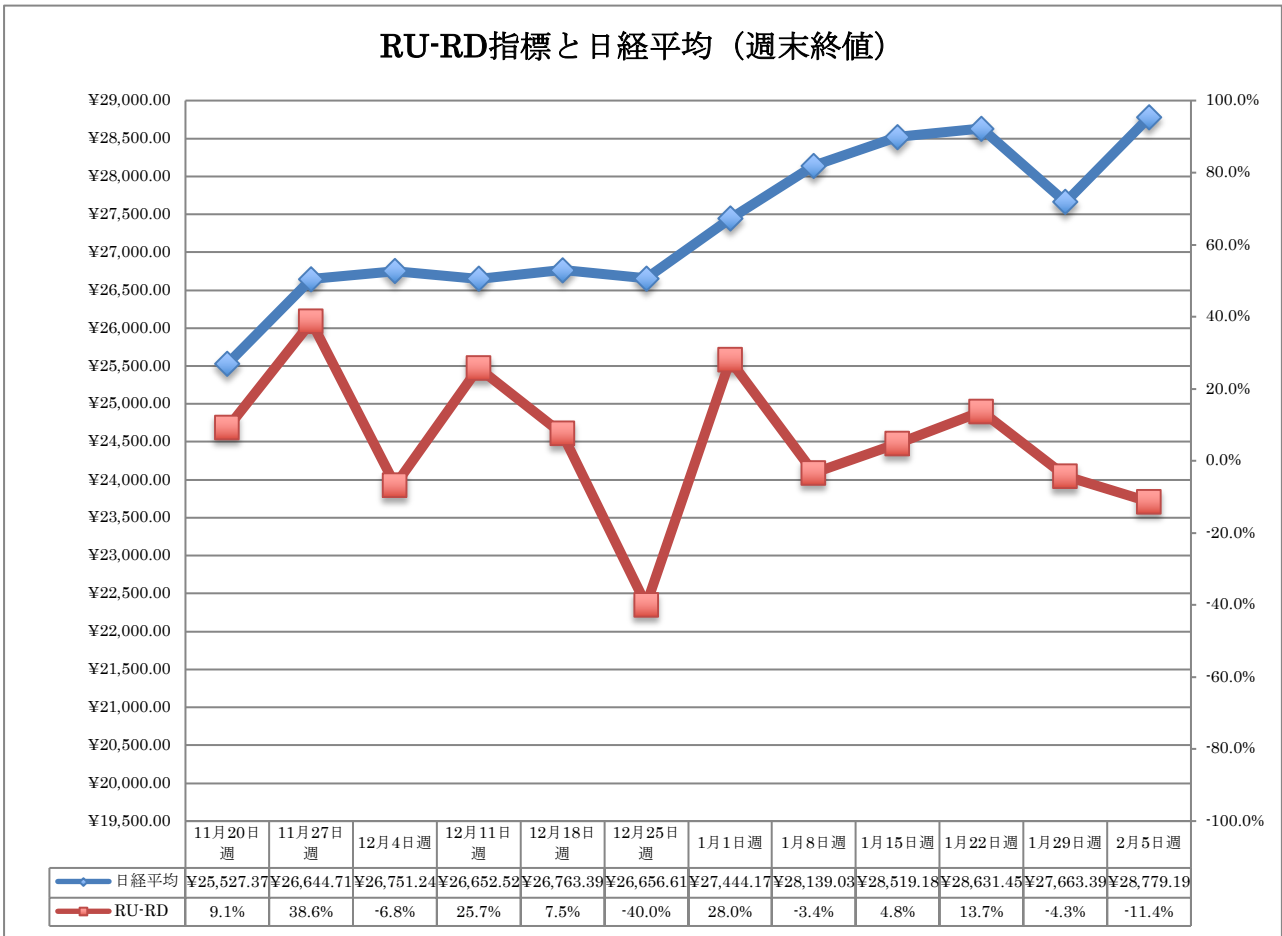
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調相場が継続しそうな週となりそうです。今週(2/1~2/5)の相場を占う『RU-RD指標』の1月22日週は-11.4%と2週連続のマイナス圏に陥っていることから軟調相場が継続しそうです。先週、「2週連続でマイナス圏に陥るのは昨年10月12日週~19日週以来、約3ヶ月振り。今週、予告通りに急落するようですと年末年始の急騰劇が一巡したことを示すシグナルの点灯となりますので要注目です。」と指摘しましたが、約1000円幅の急落調整で2週間振りの28000円割れ、これで年末年始の急騰劇が一巡したかたちです。ただ、来週(2/8~2/12)の相場を占う1月29日週は+2.2%と僅かながら3週間振りにプラス圏に浮上したことで急反発の可能性があります。来週末12日はミニSQを控えるため投機筋の外国人がこのままの低い株価でSQ値を確定させるのか、それとも少しでも反発させるのかが注目される週となりそうです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%と25週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%、1月22日週+40.0%に3度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、今週の急落調整局面が継続するのか、もしくは再度、上限ゾーンを継続して突破するような上昇局面が近未来に表れるのかが注目されます。

今週は、経済指標では、国内は、2月1日に1月新車販売台数、2日に1月マネタリーベース、5日に12月家計調査、12月景気動向指数、一方、海外では、1日に中国1月財新製造業PMI、米

12月建設支出、米1月ISM製造業景気指数、3日に米1月ADP全米雇用リポート、米1月ISM非製造業指数、4日に米12月製造業受注、5日に米1月雇用統計、米12月貿易収支などが予定されています。2月1日発表予定の米1月ISM製造業景況指数は60.0と、12月の60.7をやや下回る見通し。また2月5日発表予定の1月雇用統計は失業率6.7%（12月は6.7%）、非農業部門雇用者数は前月比+5.0万人（同-14.0万人）、平均時給は前年比+5.1%（同+5.1%）、と雇用者数が12月に減少した反動で小幅な増加となる見通しですが、予想通り増加回復できるかどうか注目したいところです。」とコメントしました。



1月15日週	1月22日週	1月29日週	2月5日週
¥28,519.18	¥28,631.45	¥27,663.39	¥28,779.19
4.8%	13.7%	-4.3%	-11.4%

先週の日経平均は、高値 28785 円（2月5日）・安値 27649 円（2月1日）と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、前の週末にかけて波乱要因となった米国市場での投機取引に関する問題で下値目標値達成から始まりましたが、米バイデン政権が掲げる大規模な追加経済対策について、共和党との協議により規模縮小もやむなしとされていた中で民主党が財政調整法を活用して単独で成立させる手続きを進めていると伝わり、前の週の下落分に相当する 1000

円幅を取り戻し上値目標値を達成、週間ベースで+1116 円高と前の週の下落分を上回る反発をして終了しています(先週予告していた上値メド 28697 円～29270 円(+2%かい離)//下値メド 27794 円～27238 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、1 月 18 日までに 29000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29000 円大台替えで仕切り直し、逆に、27500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、1 月 18 日までに 29000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30000 円大台替えで仕切り直し、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、1 月に 28000 円大台替えで仕切り直しが入りました。29000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、27000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期↑となり、長期はまだ強含みですが、短中期は方向感がなくなり乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 31252 ドル(2 月 5 日)・安値 30014 ドル(2 月 1 日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、前の週末にかけて波乱要因となった米国市場での投機取引に関する問題で下値目標値達成から始まりましたが、新型コロナウイルスのワクチン普及ペースが加速し経済活動拡大への期待が広がったことやバイデン米大統領が提示した大規模な追加経済対策を民主党が成立させる可能性が高まったことから上値目標値を達成、週間ベースでは+1166ドル高と、20 年 12 月 14 日以来、1 カ月半ぶりに節目の 3 万ドルを下回った前の週的大幅下落分を回復して終了しています(先週予告していた上値メド 30817 ドル～31433 ドル(+2%かい離)//下値メド 30313ドル～29706ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、2 月 2 日に 30500 ドル大台替えで仕切り直しが入り、4 日に 31000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 2 日間、従って、6 日(土曜日のため月曜日 8 日)までに 31500 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、30500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、1 月 29 日に 30000 ドル大台割れで下落スタートとなりましたが、逆に 2 月 4 日に 31000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。32000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、30000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、1 月に 30000 ドル大台割れで下落スタートとなりましたが、2 月に逆に、31000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。32000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、30000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期↑、中期↑、長期↑、となり、短中長期全てが強含みとなり、上昇しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 105.76 円～104.59 円(先週予告していた上値メド 104.53 円～105.57 円(+1%かい離)//下値メド 103.73 円～102.69 円(-1%かい離))と推移、上値目標値を超え、実質 6 週連続の円安・ドル高、ドル・ユーロは、1.2144～1.1950(先週予告していた上値メド 1.2177～1.2298(+1%かい離)//下値メド 1.2035～1.1914(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、

前の週と異なりドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、127.20 円～126.06 円(先週予告していた上値メド 126.97 円～128.23 円(+1%かい離)//下値メド 125.54 円～124.28 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、2 週連続で円安・ユーロ高。前の週のユーロ>ドル>円からドル>ユーロ>円に変化しましたが、2 週連続で円安が継続したかたちです。米追加経済対策法案の成立期待や新型コロナウイルスワクチンの接種ペース加速の思惑からドルが買われると同時に、ドラギ前欧州中央銀行(ECB)総裁がイタリア首相就任要請を受諾し、政局不安は和らいだことからリスク回避的なユーロ売りも縮小、円が独歩安となったかたちです。

<裁定買い残・裁定売り残>

3 週間振りに減少。昨年 3 月 23 日週に 1 月以来となる 7000 億円台に回復後、反動減がまだ続いている状況です。一方、「裁定売り残」は、前の週比+196 億円の 1 兆 3295 億円と、前の週と異なり増加。ここ 4 週間は毎週増減を繰り返し方向感がなくなっていますが、昨年 11 月 9 日～今年 1 月 4 日の 9 週間のうち昨年 11 月 30 日週の 1 週を除き実質 9 週間で 6950 億円減少と買い戻しが起きて、日経平均が 30 年振りに 28000 円大台を回復した牽引役の一つとなっていました。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18 年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で+1.12 兆円の急増となり、18 年 5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 18 年 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18 年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円と 18 年 2 月 5 日週以来の急減で、やはり 18 年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

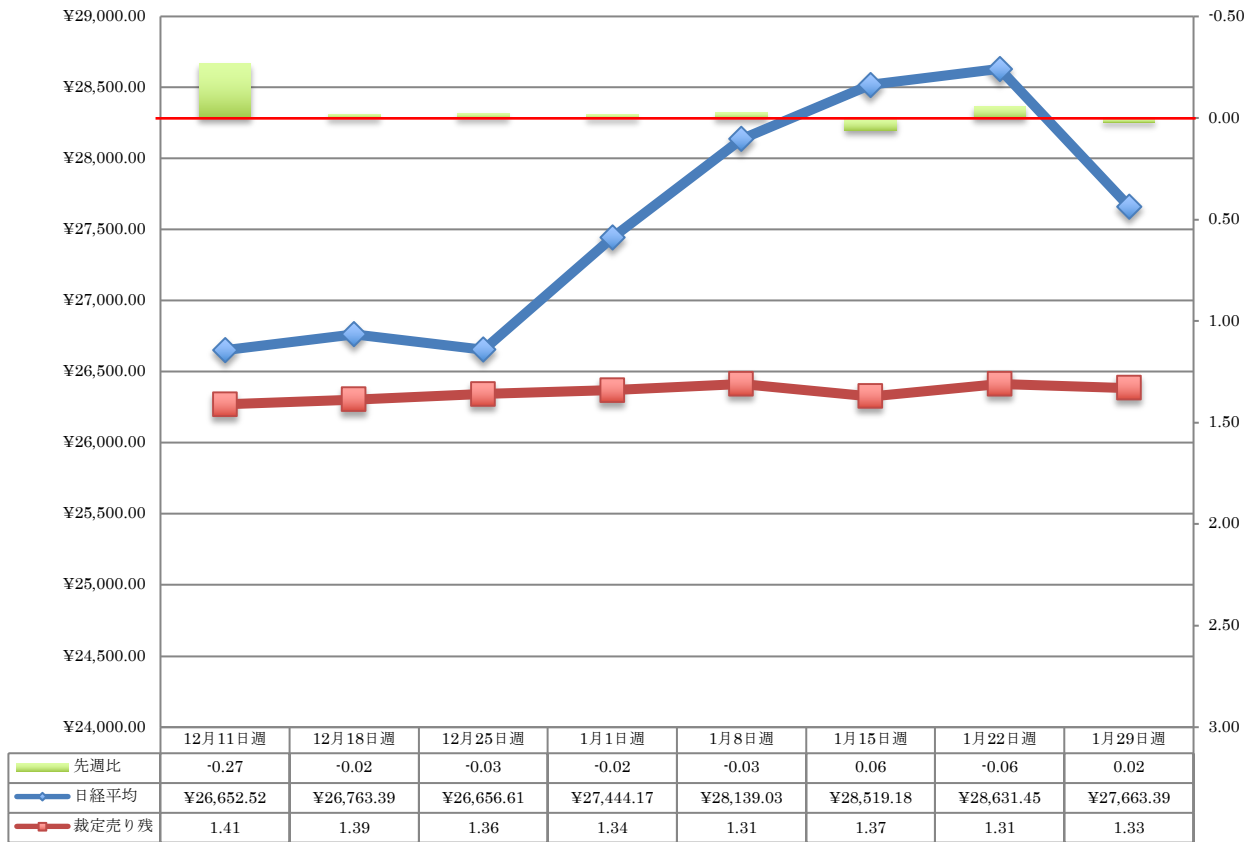
裁定買い残と先週比



	1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週
日経平均	¥28,139.03	¥28,519.18	¥28,631.45	¥27,663.39
裁定買い残	0.4	0.43	0.47	0.45
先週比	-0.02	0.03	0.04	-0.02

単位:兆円

裁定売り残と先週比



1月8日週	1月15日週	1月22日週	1月29日週
¥28,139.03	¥28,519.18	¥28,631.45	¥27,663.39
1.31	1.37	1.31	1.33
-0.03	0.06	-0.06	0.02

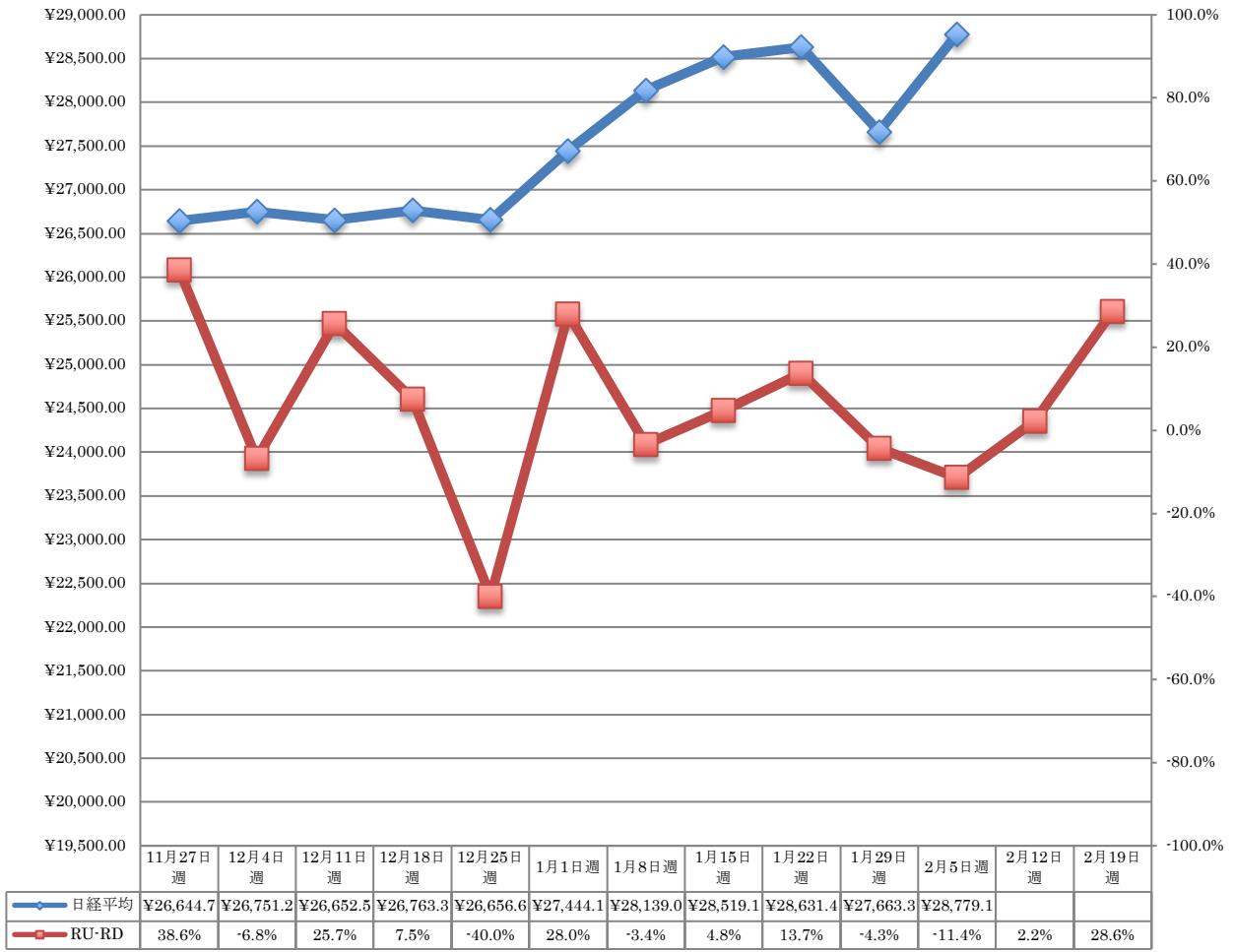
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は本来、急反発の可能性がある週です。今週(2/8~2/12)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月29日週は+2.2%と僅かながら3週間振りにプラス圏に浮上したことで急反発の可能性があります。ただ、先週、昨年10月12日週~19日週以来、約3ヶ月振りの2週連続のマイナス圏で本来、軟調相場が継続しそうな週でしたが逆に、前の週の約1000円幅の急落調整分を埋めるような急反発となったことで今週の急反発の可能性は低くなったかたちです。ただ、来週(2/15~2/19)の相場を占う2月5日週は+28.6%と、20年12月28日週~21年1月4日週以来の2週連続プラス圏となるため堅調相場が期待されます。今週末12日はミニSQを控えるため投機筋の外国人がこのままの？株価を維持するのか、それとも更に株価を吊上げる操作をするのかが注目されます。特に、株価の先行指標としてのビットコインにも要注目です。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が、1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%→2月5日週+45.7%と26週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%、1月22日週+40.0%、に次いで4度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、4度目の上限ゾーン突破は今回の上昇局面で最高となったことからようやく天井圏形成の段階に入ったことが期待されるかたちになりました。

今週は、経済指標では、国内は、8日に1月景気ウォッチャー調査、9日に12月毎月勤労統計、1月マネーストック、1月工作機械受注、10日に1月都心オフィス空室率、一方、海外では、10日に中国1月生産者物価指数、中国1月消費者物価指数、米1月消費者物価指数、米1月財政収支、11日に新規失業保険申請件数などが予定されています。10日発表の1月消費者物価コア指数(CPI)は、前年比+1.5%と底堅い内容が予想されています。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は11日は建国記念日で休場、12日はオプションSQ(特別清算指数算出日)、一方、海外では、10日にパウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長はエコノミッククラブ・オブ・ニューヨーク主催のオンライン講演を行う予定です。米国の経済、労働市場の見通しに加えて、当面大規模な金融緩和を維持する姿勢の他、出口戦略に関する言及にも注目したいところです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



1月29日週	2月5日週	2月12日週	2月19日週
¥27,663.39	¥28,779.19		
-4.30%	-11.40%	2.20%	28.60%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 28567 円～29138 円 (+2%かい離)

下値メド 27610 円～27057 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 30761 ドル～31376 ドル (+2%かい離)

下値メド 29926 ドル～29327 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 106.00 円～107.06 円 (+1%かい離)

下値メド 104.90 円～103.81 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.2112～1.2233 (+1%かい離)

下値メド 1.1981～1.1861 (-1%かい離)

<ユーロ円>

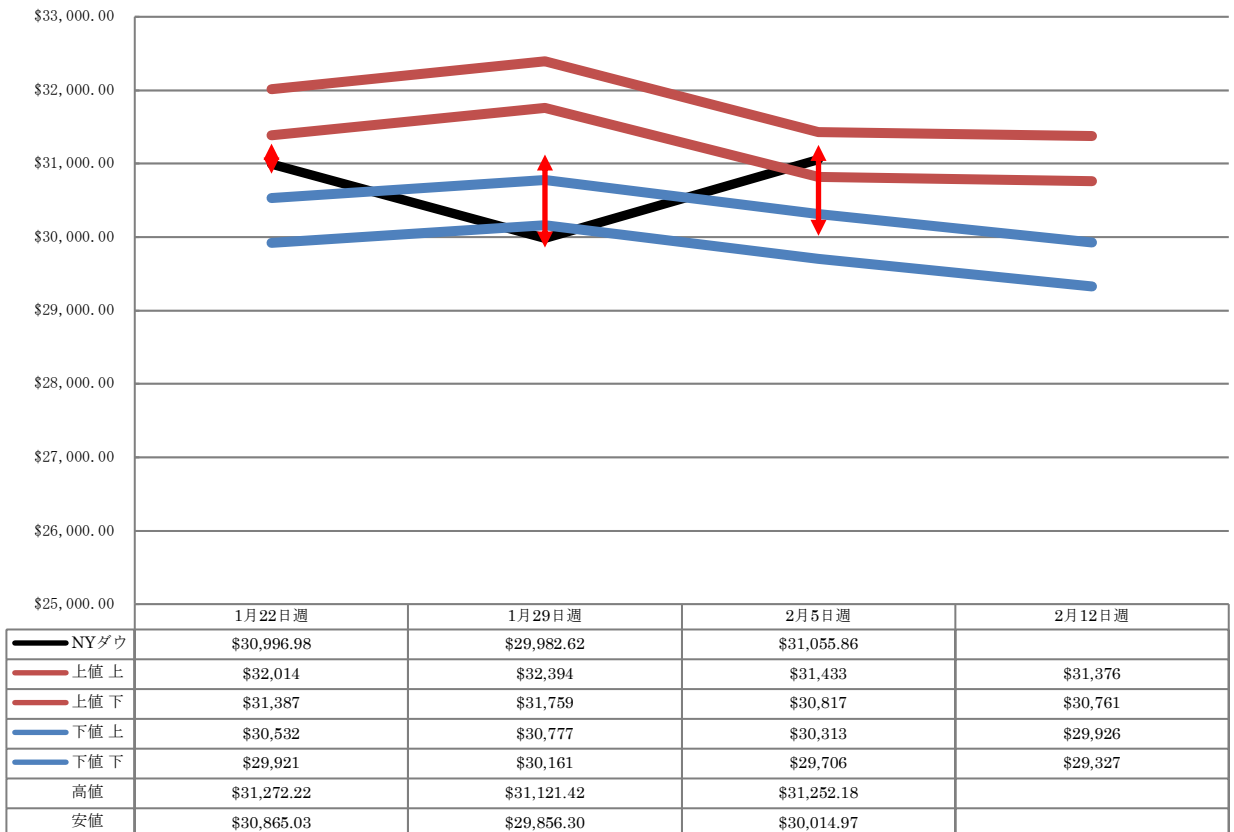
上値メド 127.78 円～129.05 円 (+1%かい離)

下値メド 126.20 円～124.93 円 (-1%かい離)

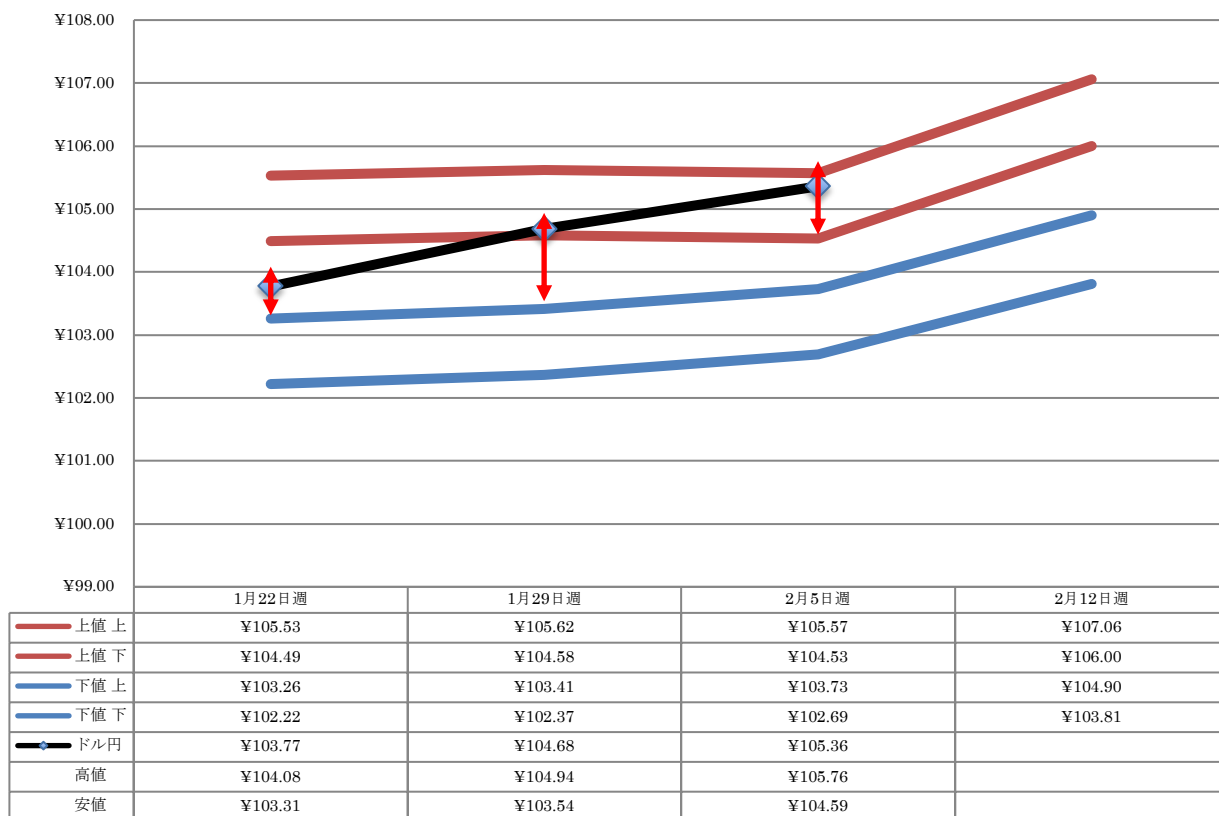
日経平均



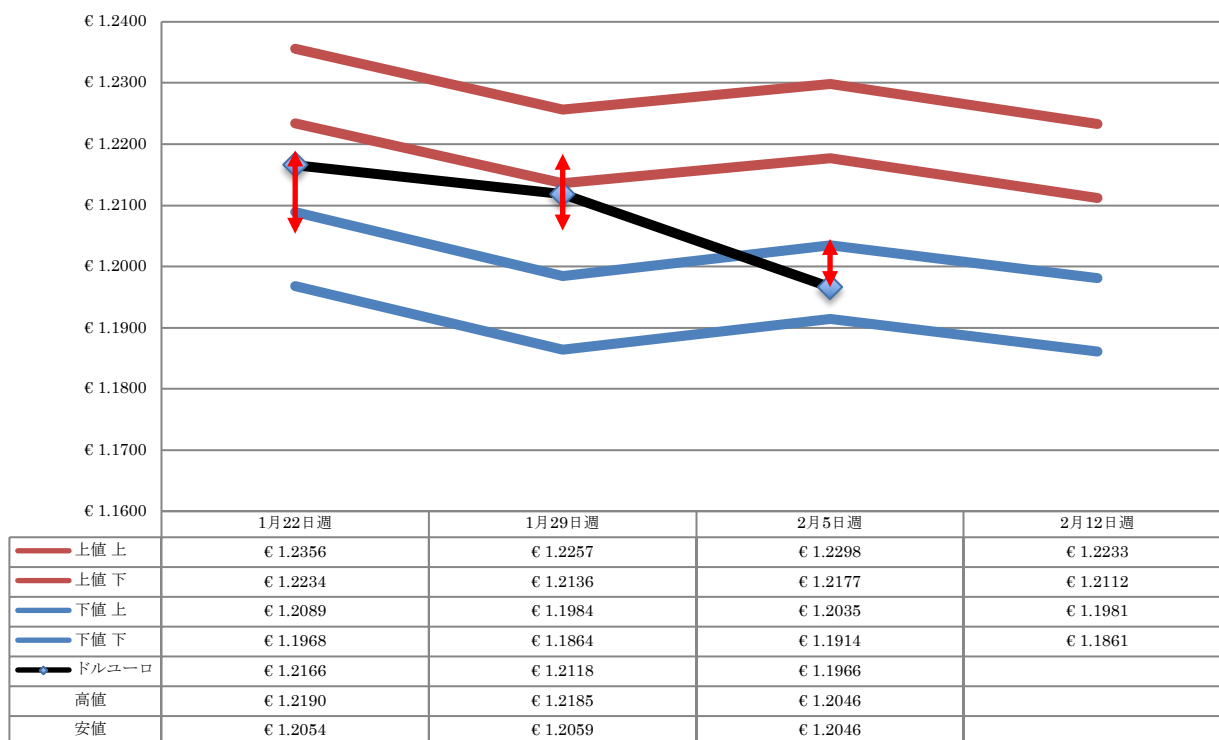
NYダウ



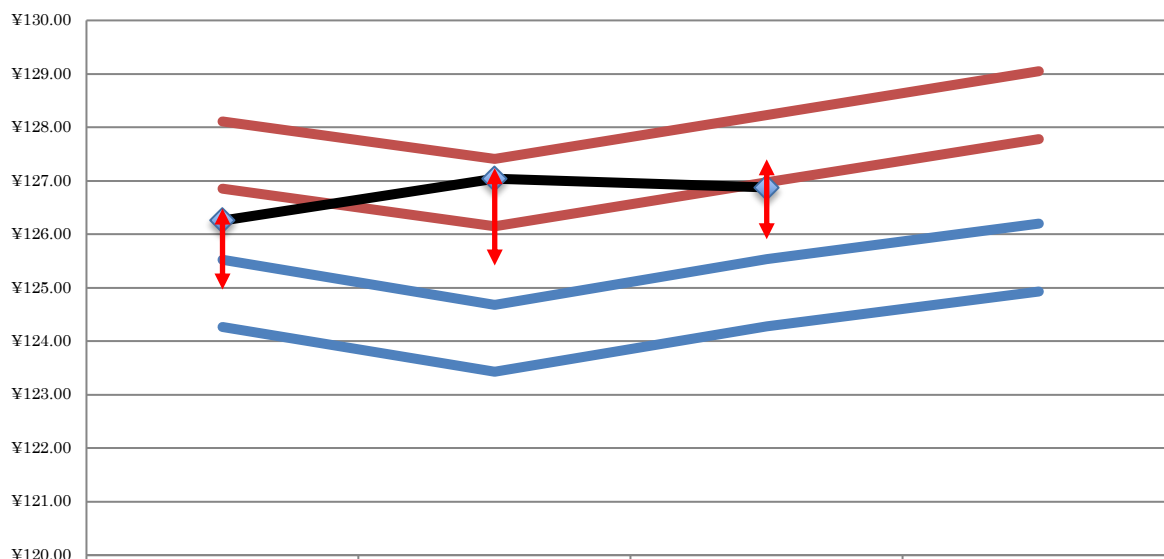
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

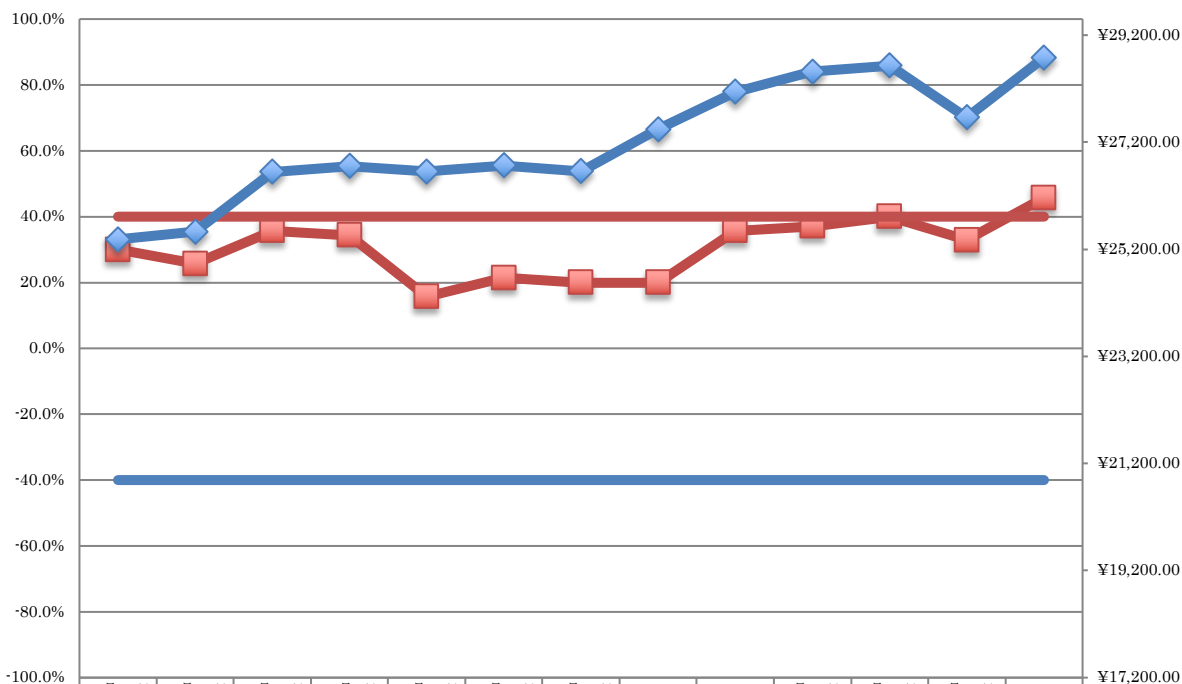


	1月22日週	1月29日週	2月5日週	2月12日週
上値上	¥128.11	¥127.41	¥128.23	¥129.05
上値下	¥126.85	¥126.15	¥126.97	¥127.78
下値上	¥125.53	¥124.68	¥125.54	¥126.20
下値下	¥124.27	¥123.43	¥124.28	¥124.93
ユーロ円	¥126.26	¥127.04	¥126.87	
高値	¥126.49	¥127.24	¥127.40	
安値	¥124.97	¥125.42	¥125.91	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は、9月4日週+40.0%→9月11日週+38.6%→9月18日週+32.9%→9月25日週+34.3%→10月2日週+10.0%→10月9日週+44.3%→10月16日週+30.0%→10月23日週+25.7%→10月30日週+5.7%→11月6日週+7.1%→11月13日週+30.0%→11月20日週+25.7%→11月27日週+35.7%→12月4日週+34.3%→12月11日週+15.7%→12月18日週+21.4%→12月25日週+20.0%→12月31日週+20.0%→1月8日週+35.7%→1月15日週+37.1%→1月22日週+40.0%→1月29日週+32.9%→2月5日週+45.7%と26週連続プラス圏ですが、9月4日週+40.0%、10月9日週+44.3%、1月22日週+40.0%、に次いで4度目の上限ゾーン突破となりました。以前から、『いずれ+40%超の上限ゾーンを継続して突破する近未来が待っています。』と指摘してきましたが、4度目の上限ゾーン突破は今回の上昇局面で最高となったことからようやく天井圏形成の段階に入ったことが期待されるかたちになりました。

日経平均とT2レーティング比率



	11月13日 週	11月20日 週	11月27日 週	12月4日 週	12月11日 週	12月18日 週	12月25日 週	1月1日週	1月8日週	1月15日 週	1月22日 週	1月29日 週	2月5日週
■ 銘柄比率	30.0%	25.7%	35.7%	34.3%	15.7%	21.4%	20.0%	20.0%	35.7%	37.1%	40.0%	32.9%	45.7%
■ 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
■ 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥25,385.8	¥25,527.3	¥26,644.7	¥26,751.2	¥26,652.5	¥26,763.3	¥26,656.6	¥27,444.1	¥28,139.0	¥28,519.1	¥28,631.4	¥27,663.3	¥28,779.1

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。